

「いい子にしていたら、安珍が、嫁にもらってくれるのか？」  
と、童女は顔をあげた。

「ああ、もらってあげるよ。」

安珍は、子供に対する軽い気持ちで……そう言った。

「じゃあ、泣かない。」

……口をへの字に曲げ、眼にいつぱい涙をためて、清姫は堪えた。

清姫は、あの時の約束を、覚えているらしい……。

